

福岡県立高校入試問題に挑戦!

~ 未来への架け橋 《令和5年度版》 ~



まずは自分で問題を解いてみましょう。その後、下の解説を読みましょう
わからない時は、 [] の解決する際のポイントを参考にして再挑戦してみましょう!

- ① 次の「**文章**」を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【文章】

「時間どろぼう」という言葉記憶している読者は多いだろう。ドイツの作家ミヒャエル・エンデ作『モモ』に出てくる言葉である。時間貯蓄銀行から派遣された灰色の男たちによって、人々の時間が盗まれていく。それをモモという少女が活躍してとりもどす。そのために彼女がとった手段は、ただ相手に会って話を聞くことだった。このファンタジーは現代の日本で、ますます重要な意味をもちつつあるのではないだろうか。

時間とは記憶によって紡がれるものである。かつて距離は時間の関数だった。だから、遠い距離を旅した記憶は、かかった時間で表現された。「七日も歩いて着いた国」といえば、ずいぶん遠いところへ旅をしたところになった。その間に出会った多くの景色や人々は記憶のなかに時間の経過とともにならび、出発点と到着点を結ぶ物語となった。しかし、今は違う。東京の人々にとって飛行機で行く沖縄は、バスで行く名古屋より近い。移動手段の発達によって、距離は時間では測れなくなった。

時間にとって代わったのは費用である。「(X)なり」ということわざは、もともと時間はお金と同じように貴重なものだから大切にしなければいけないという意味だった。ところが、次第に「時間は金で買えるもの」という意味に変わってきた。特急料金をはらえば、普通列車で行くより時間を短縮できる。速達郵便は普通郵便よりも料金が高い。航空便は船便より費用がかさむ。同時に、距離も時間と同じように金に換算されて話題に上るようになった。しかし、これは大きな勘違いを生むものとなった。金は時間のように記憶によって蓄積できるものではない。本来、金は今ある可能性や価値を、劣化しない紙幣や硬貨に代えて、それを将来に担保する装置である。いわば時間を止めて、その価値や可能性が持続的であることを認める装置だ。しかし、実はその持続性や普遍性は危うい約束事や予測の上になり立っている。今の価値が将来も変わることなく続くかもしれないが、もっと大きくなった。ゼロになるかもしれない。リーマン・ショックが代表される近年の金融危機は、そのことを如実に物語っている。

時間には決して金に換算できない側面がある。たとえば、子どもが成長するには時間が必要だ。金をかければ、子どもの成長を物質的に豊かにできるかもしれないが、成長にかかる時間を短縮することはできない。そして、時間が紡ぎだす記憶を金に換算することもできないのだ。社会で生きていくための信頼を金で買えない理由がここにある。信頼は人々の間に生じた優しい記憶によって育てられ、維持されるからである。

人々の記憶でつくられるネットワークを社会資本という。何か困った問題が起こったとき、ひとりでは解決できない事態が生じたとき、頼れる人々の輪が社会資本だ。それは互いに顔と顔を合わせ、時間をかけて話をすることに よってつくられる。その時間は金では買えない。人々のために費やした社会的な時間が社会資本の元手になるのだ。私はそれを、野生のゴリラとの生活で学んだ。ゴリラはいつも仲間の顔が見える、まとまりのいい十頭前後の群れで暮らしている。顔を見つめ合い、しぐさや表情で互いに感情の動きや意図を的確に読む。人間の最もまとまりのよい集団のサイズも十〜十五人で、共鳴集団と呼ばれている。サッカーやラグビーのチームのように、言葉を用いずに合図や動作で仲間の意図が読み、まとまって複雑な動きができる集団である。これも日常的に顔を合わせる関係によって築かれる。言葉のおかげで、人間はひとりではなく、言葉はそれを補助するにすぎない。

人間が発する言葉は個性があり、声は身体と結びついていて、だが、文字は言葉を身体から引き離し、劣化しない情報に変える。情報になれば、効率が重視されて金と相性がよくなる。現代の危機はその情報化を急激に拡大してしまったことにあると私は思う。本来、身体化されたコミュニケーションによって信頼関係をつくるために使ってきた時間を、今私たちが膨大な情報を読み、発信するために費やしている。フェイスブックやチャットを使って送信し、近況を報告し合う。それは確かに仲間と会って話す時間を節約しているのだが、果たしてその機能を代用できているのだろうか。

現代の私たちは、一日の大半をパソコンやスマホに向かって文字とつき合いながら過ごしている。もっと、人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うことに使うべきなのではないだろうか。それこそが、モモがどろぼうたちからとりもどした時間だった。時間が金に換算される経済優先の社会ではなく、人々の確かな信頼にもとづく生きた時間をとりもどしたいと切に思う。

（山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』による。一部改変）

（注）リーマン・ショック：二〇〇八年にアメリカの大手証券会社が経営破綻したことをきっかけに起こった世界金融危機のこと。

フェイスブック：登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスの一つ。 チャット：インターネットワーク上で、複数の人が同時に送信し、文字等による会話をすること。 スマホ：スマートフォンのこと。

やや難

問五 本文中に『モモ』の話

引用することで、書き手が 現代の日本に必要なだと示唆 しているのはどのようなこと か。二十五字以上、三十五字 以内で考えて書け。

		25		
35				



次のように解きます。

問五

[1] 問われている内容と答え方の条件を確認する。

○問われている内容

- 『モモ』の話の引用によって、書き手が現代の日本に必要なだと示唆しているのはどのようなことかを読み取る。
(⇒書き手が気づかせたいこと、つまり、書き手の主張を捉える。)

○答え方の条件

- 「どのようなことか」と問われているので、「〜〜こと。」という形で、25字以上、35字以内で答える。

・読み方…しさ
・意味…それとなく気づかせること。

ポイント 条件に合わせて答えよう。

[2] 本文中で『モモ』の話が引用されている部分を確認し、書き手の主張を捉える。

①「時間どろぼう」という言葉を記憶している読者は多いだろう。ドイツの作家、ヒヤル・エンデ作『モモ』に出てくる言葉である。時間貯蓄銀行から盗まれた灰色の男たちによって、人々の時間を盗まれていく。それをモモという少女が活躍してとりもどす。そのために彼女がこたえ手続は、ただ相手に会って話を聞くことだった。このファンタジーは現代の日本で、ますます重要な意味をもちつつあるのではないだろうか。

②時間とは記憶によって紡がれるものである。かつて距離は時間の関数だった。だから、遠い距離を旅した記憶は、かかった時間で表現された。一日も歩いた国、といえは、ずいぶん遠いところへ旅をしたことになった。その間に会った多くの景色や人々は記憶のなかに時間の経過とともに並び、出発点到着点を結ぶ物語となった。

③しかし、今は違う。東京の人々にとって飛行機で行く沖繩は、バスで行く名古屋より近い。移動手段の発達によって、距離は時間では測れなくなった。

④時間にとって代わったのは費用である。「(X)なり」ということわざは、もともと時間はお金と同じように貴重なものだから大切にしなければいけないという意味だった。ところが、次第に「時間は金で買えるもの」という意味に変わってきた。特急料金を払えば、普通列車で行くより時間を短縮できる。速達郵便は普通郵便よりも料金が高い、航空便は船便より費用がかかる。同時に、距離も時間も同じように金に換算される話題によるようになった。

⑤しかし、これは大きな勘違いを生むものとなった。金は時間のように記憶によって蓄積できるものではない。本来金は今ある可能性や価値、劣化しない紙幣や硬貨に代えて、それを将来に担保する貯蓄である。いわば時間を止める、その価値や可能性が持続的であることを認めざるを得ない。しかし、実はその持続性や普遍性は危い約束書き手測の上になり立っている。今の価値が将来も変わることを続かもしないが、もつて大々になったり、ゼロになるかもしれない。リーマン・ショックに代表される近年の金融危機は、そのことを如実に物語っている。

⑥時間には決して金に換算できない側面がある。たとえば、子どもが成長するには時間が必要だ。金をかければ、子どもの成長を物理的に豊かにできるかもしれないが、成長にかかる時間を短縮することはできない。そして、時間が紡ぎ出す記憶を金に換算することもできないのだ。社会で生きていくための信頼を金で買えない理由がここにある。信頼は人々の間に生じた優しい記憶によって育ち、維持されるからである。

⑦人々の記憶でつくられるネットワークを社会資本という。何か困った問題が起ったとき、ひとりでは解決できない事態が生じたとき、頼れる人々の輪が社会資本だ。それは互いに顔と顔を合わせ、時間をかけて話をするこによってつくられる。その時間は金で買えない。人々のために費やした社会的な時間が社会資本の原石になるのだ。

⑧私はそれを、野生のゴリラとの生活で学んだ。ゴリラはいつも仲間顔が見え、まとまりのいい十頭前後の群れで暮らしている。顔を肩つめ合い、しゅら表情で互いに感情の動きや意図を的確に読み、人間の最もモモのよい集団のサイズも十五人、共鳴集団と呼ばれている。サッカーやラグビーのチームのように、言葉を用いずに合図や動作で仲間の意図を読み、まとまって複雑な動きができる集団である。これも日常的に顔を合わせ関係によって築かれる。言葉のおかげで、人間はひとりでも、いっしょの共鳴集団をつくることのできた。でも、信頼関係をつくくるには視覚や接触によるコミュニケーションに勝るものはない。言葉はそれを補助するにすぎない。

⑨人間が発する言葉は個性があり、声は身体と結びついている。だが、文字は言葉を身体から引き離し、劣化しない情報に変える。情報になれば、効率が重視され金と相性がよくなる。現代の危機はその情報化意欲に拡大してしまったことにあると思える。本来、身体化されたコミュニケーションによって信頼関係をつくるために使ってきた時間を、今私たちは膨大な情報を読み、発信するために費やしている。フェイスブックやチャットを使って発信し、近況を報告し合う。それは確かに仲間と会って話す時間を節約しているのだが、果たしてその機能が代用できているのだろうか。

⑩現代の私たちは、一日の大半をパソコンやスマホに向かって文字とつき合いながら過ごしている。もっと、人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うことに使うべきなのではないだろうか。それこそが、王ががらほらたちからとりもどしたいと切に思う。

(1)~(10)は形式段落を表す。

○『モモ』の話引用(形式段落①・⑩)することで、書き手が、現代の日本で必要だと主張していること

- 「このファンタジーは現代の日本で、ますます重要な意味をもちつつあるのではないだろうか。」(①)
モモという少女が「時間どろぼう」から盗まれた時間をとりもどすために、ただ相手に会って話を聞くという『モモ』の話。(①)
⇒現代の日本で重要な意味をもちつつあるのは、『モモ』の話のように、ただ相手に会って話を聞くことである。
- 「もっと、人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うことに使うべきなのではないだろうか。」(⑩) **ポイント** 文末表現に着目して主張を探し、その内容を捉えよう。
⇒現代の私たちは、一日の大半をパソコンやスマホに向かって文字とつき合いながら過ごしている(⑩)が、一日の時間をもっと人と顔を合わせ、話すことなどに使うべきである。
- 「時間が金に換算される経済優先の社会ではなく、人々の確かな信頼にもとづく生きた時間をとりもどしたいと切に思う。」(⑩)
⇒切に思うのは、「決して金に換算できない側面がある」(⑥)時間を優先し、「金で買えない」(⑥)ものであり、「互いに顔と顔を合わせ、時間をかけて話をするることによってつくられる」(⑦)確かな信頼にもとづく生きた時間を取り戻すことである。

[3] 答え方の条件に従って解答を書く。

○指定された字数[25字以上、35字以内]に合うように調整し、「〜〜こと。」という形で書く。

ポイント 字数を気にせず書いてみた後に、重要でない部分を削って調整しよう。

(答)(例) 相手に会って話をするこで、金に換算できない生きた時間を取り戻すこと。[35字]

福岡県立高校入試問題に挑戦!

～ 未来への架け橋 《令和5年度版》 ～

【三】次は、『莊子』という書物にある話【A】と、その現代語訳【B】である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【A】 莊周、家貧なり。ゆゑに往きて粟を監河侯に貸る。監河侯曰く、諾。我將に邑金を得んとす。將に子に三百金を貸さんとす、可ならんか、と。莊周、忿然として色を作して曰く、周、昨来るとき、中道にして呼ぶ者有り。周、顧視すれば、車轍中に鮒魚有り。周、之に問ひて曰く、鮒魚来れ、子は何為る者ぞや、と。対へて曰く、我は東海の波臣なり。君豈に斗升の水有りて我を活かさんか、と。周曰く、諾。我且に南のかた呉越の王に遊ばんとす。西江の水を激して子を迎へん、可ならんか、と。鮒魚、忿然として色を作して曰く、吾は我が常与を失ひ、我、処る所無し。吾、斗升の水を得ば然も活きんのみ。君乃ち此を言ふ。曾ち早く我を枯魚の肆に索めんには如かず、と。

【B】 (注) 莊周：中国の戦国時代の思想家。 監河侯：河川の水利を監督する役人。
三百金：黄金三百斤。一斤は六〇〇グラムに当たる。 斗升：一斗は一升の十倍で、一ハ・〇三九リットルに当たる。
呉越：呉の国と越の国。

【B】 莊周は家が貧しく食糧に困っていた。そこで監河侯のところへ出かけてゆき食糧を借りようとした。すると監河侯が言った、「よらしいとも。私は近々、領地からの租税が手にはいるはずになっている。そうしたら三百金ほど貸してさしあげよう。それでよいかな。」と。これを聞くと、莊周はむっとして顔色を変えて言った、「私が昨日ここへ来る途中、道で私を呼びとめる者があった。あたりを見まわすと車輪の跡の水たまりに鮒がいた。私が『鮒よ、どうして私を助けてください。』と答えて言った。私が『よらしいとも。私はこれから南方の呉越の王のところに行くところだ。蜀江の川水を押し流してお前を迎えてやる。』と答えて言った。鮒はむっとした顔つきをして言ったものだ。蜀江の川水を押し流してお前を迎えてはならない水を今失っているの、いる場所がないのです。私はただ一斗か一升ほどの水さえ得られたら生きられるのです。それをあなたがそのように言われる。それなら、いっそさっさと乾物屋の店先にも行って私を見つけたらよろしかろう。』とね。」

(注) 乾物屋：乾した食品を売る店。

(『新釈漢文大系 第8巻 莊子(下)』による。一部改変)

問五 次の□の中は、【A】、【B】を読んだ堤さんと小島さんと先生が、会話をしている場面である。

堤さん	【A】の「曾ち早く我を枯魚の肆に索めんには如かず」という鮒の言葉は、遠回しに言っているけれど、【ア】をもらわないと干からびてしまうという意味なのですね。
小島さん	なるほど。【A】では、【イ】を莊周に、【ウ】を鮒にそれぞれ置き換えて、例え話を進めています。監河侯という職が水利を監督する仕事であることに関連して、鮒を用いる巧みな例えではないかと思えます。
先生	そうですね。『莊子』は、日本の古典にも大きな影響を与えています。【A】は、日本本の古典『宇治拾遺物語』の中にも収められており、「後の千金の事」という題で話がまとめられています。
堤さん	【A】と「後の千金の事」とでは、内容に何か違いはあるのですか。
先生	例えや内容はほぼ同じですが、千金が入ったらさしあげようと監河侯が言うのと、鮒の例えの後に莊周が「今日の命、物食はずは生くべからず。後の千の金さらに益なし」と言ったことが付け加えられています。
小島さん	特に「後の千の金さらに益なし」を踏まえて考えると、鮒の例えでも莊周の逸話でも共通して言いたいことは、【エ】ということだと分かりました。
先生	二人とも、例え話に着目して、【A】の内容について深く考えることができましたね。

やや難イ、ウ

(1) 【ア】、【イ】、【ウ】に入る語句

として最も適当なものを、次の1～6からそれぞれ一つ選び、番号を書け。

- 1 莊周
- 2 監河侯
- 3 三百金
- 4 鮒魚
- 5 斗升の水
- 6 西江の水

ウ	イ	ア

難

(2) 【エ】に入る内容を、十字以上、十五字以内で考えて書け。

10					
15					



次のように解きます。

問五(1) 空欄アの解き方は省略

(答) 5

問五(1) 空欄イ、ウ

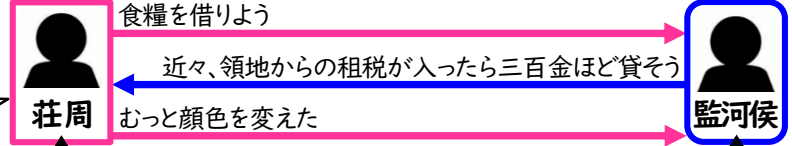
[1] 問われている内容を確認する。

○【A】の例え話で、**莊周**、**鮒**にそれぞれ置き換えているものを読み取る。

[2] 例え話で置き換えられているものを、現代語訳を参考に読み取る。

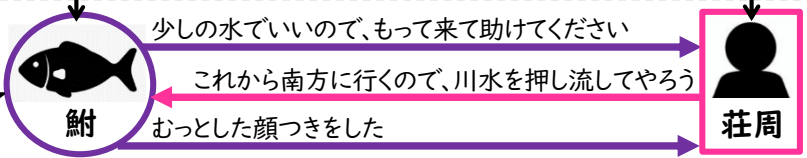
○前半…**莊周**と**監河侯**の話
(**莊周**の逸話)

家が貧しく食糧に困っていた。



○後半…**莊周**と**鮒**の話
(**鮒**の例え)

車輪の跡の水たまり(ほとんど水がない場所)にいた。



① 莊周は家が貧しく食糧に困っていた。そこで監河侯のところへ出かけてゆき食糧を借りようとした。すると監河侯が言った、「よろしいとも。私は近々、領地からの租税が手にはいるはずになっている。そうしたら三百金ほど貸してさしあげよう。それでよいか。」と。これを聞くと、莊周はむっとして顔色を変えて言った、「私が昨日こへ来る途中、道で私を呼びとめる者があった。あたりを見まわすと車輪の跡の水たまりに鮒がいた。私が『鮒よ、どうしたのかね。』とたずねた。私は東海の小臣です。どうか少しばかりの水で結構ですから、もってきて私を助けてください。と答えて言った。私が『よろしいとも。私はこれから南方の呉越の王のところに行くところだ。蜀江の川水を押し流してお前を迎えてやろう。それでどうかな。』と言った。鮒はむっとした顔つきを言ったもので、『私はなくてはならない水を今失っているの、いる場所がないのです。私はただ一斗か一升ほどの水さえ得られただら生きられるのです。それをあなたがそのように言われる。それなら、いっそさっさと乾物屋の店先にでも行って私を見つけたらよろしかろう。』とね。」

② 莊周 家貧なり。ゆゑに往きて粟を監河侯に貸。監河侯曰く、諾。我將三百金を得んとす。將に子に三百金を貸さんとす、可ならんか、と。莊周 忿然として色を作して曰く、周 昨來るとき、中道にして鮒有。周 顧視すれば、車轍中に鮒魚有り。周 之に問ひて曰く、鮒 米れ。子は何為る者ぞや、と。對へて曰く、我は東海の波臣なり。君に斗升の水有りて我を活かさんか、と。周曰く、諾。我且に南のかた呉越の王に遊ばんとす。西江の水を激して子を迎へん、可ならんか、と。鮒 忿然として色を作して曰く、吾 我が常与を失ひ、我、処る所無し。吾 斗升の水を得ば然も活きんのみ。君乃ち此を言ひ、曾ち早く我を枯魚の肆に索めんには如かず、と。

ポイント 古典の原文で述べられている内容を、現代語訳を参考にして、登場人物を整理しながら読み取る。また、登場人物を整理する際は、それぞれの登場人物を表す語句に印を付けてみよう。

莊周の逸話と鮒の例えにおける対応関係

莊周の逸話	鮒の例え
監河侯 ← → 莊周	
莊周 ← → 鮒魚	
粟(食糧) ← → 斗升の水	
三百金 ← → 西江の水	

(答) イ:2

(答) ウ:1

次のように解きます。

問五(2) 空欄エ

[1] 問われている内容と答え方の条件を確認する。

- 問われている内容…**鮒**の例え、**莊周**の逸話で共通して言いたいことを読み取る。
- 答え方の条件…10字以上、15字以内で考えて書く。

[2] まず、**鮒**の例え、**莊周**の逸話のそれぞれで言いたいことを読み取る。

○**鮒**、**莊周**がそれぞれ**むっとしている内容**を基に、**言いたいこと**を読み取る。

- ・**鮒(後半)**…今水がほしいのに、南方に行った後に川水を押し流してやろうと言われた⇒今水をもらわないと干からびてしまう。
- ・**莊周(前半)**…今食糧がなくて困っているのに、近々租税が手に入ったら大金を貸してあげようと言われた⇒後で大金をもらっても役に立たない。

[3] [2]で読み取った言いたいことの共通点について、答え方の条件に従って解答を書く。

○指定された字数[10字以上、15字以内]に合うように調整し、空欄エの後の語句に続くように書く。

(答) (例) 間に合わない援助では意味がない[14字]

ポイント 現代語訳を参考に、例えと逸話が言いたいことをそれぞれ整理した上で、共通して言いたいことを読み取る。

